

日刊人吉新聞

発行所
人吉新聞社

〒868-0072人吉市西間下町112-3

電話(0966)24-2111(代)

FAX(0966)24-2113(代)

(HP) www.hitoyoshi-sharepla.com

(☎) daiyou@hitoyoshi-press.com

人吉海軍航空 基地跡整備 平和の希求へ

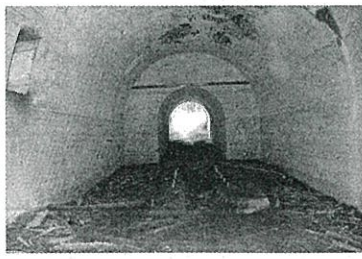
(中)

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表

高谷 和生

九州トップクラスの残存度

海軍人吉飛行場は、これまでにくまもと戦跡ネットワークをはじめ、人吉球磨の戦争遺跡を伝えるネットワーク等が各種調査を



耐弾式RC地下発電所壕の内部

長く続け、『子どもと歩く熊本』の戦争遺跡県南編」他でも紹介してきました。ここ3年程前から「人吉海軍航空隊を顕彰する有志の会」のメンバーが徹底した現地調査を実施し、以下の諸遺構が確認されています。

本航空隊施設は二分され、県道33号を挟み南側の新立・由留木周辺部には「飛行場地区跡」があり、地上に河原石で造作した正門1、格納庫基礎部2、方形水槽4他が遺

存。地下には地下魚雷調整所壕、地下作戦室RC壕、地下無線室RC壕、設営隊壕、兵舎壕、弾薬庫壕、地下格納庫壕、地下倉庫(未確認)他が遺存します。

さらに、北側の人吉農芸学院周辺部には「教育



発電所壕の人員入り口

特に地下作戦室・地下無線室・壕耐弾式地下発電所の3カ所は圧巻で、全国の同様施設との

隊庁舎兵舎地区跡」があり、隊門のほか、練兵場土塁、耐弾式RC地下発電所(大型水槽1も含む)、防火水槽3、避難兵員・交通壕2他が遺存します。高台下を流れる川

辺川からは高原台地に灌漑用の飛行場用水路を導引し現在も利用しているのです。

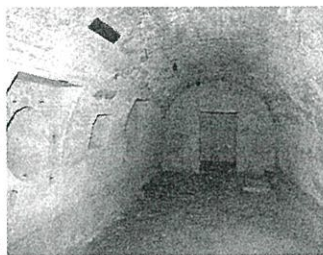
資料検証を進め、軍施設の変遷を追える資料群です。

このように錦町・相良村の当地区には、広域にわたり人吉海軍航空基地跡(飛行場地区・練習教育隊地区)をはじめ、第二十二海軍航空隊人吉分工場、佐世保鎮守府軍需部地下施設が分布しています。

これらは言うまでもなく近現代の遺跡群で、現在でも本遺跡の地下遺構のボリューム、残存度は九州内でトップクラスです。

当初は航空隊施設が中心で予備飛行場の色彩が強く、球磨川等による濃霧の影響も大きかったことから地上設備は濃厚で

地下無線室RC壕の内部



ながら、最終的には文化財に指定しながら保存をしていくことが必要と考えます。本遺跡の遺跡観が、これらの作業を通して醸成されていくのです。

あくまでも近現代遺跡としての調査内容の積み上げ、史跡として保存整備する中で、観光にも生かしていくという「錦町の当初方針」を堅持していくことが大切です。

ただし、観光視点をさらに強調したいのであれば、広島原爆関連施設や沖繩の南部戦跡等ですらに進められている「データツーリズム」観光も視野に入れて進めていくことがよいかもれません。

(続く)